

ふるさと探訪



[36]

「平重盛は永万年丹波の知行国主となり、天橋立の景勝を愛して社中

に館を置いたと云う。また、綾部にも所領を得て

宮代町の綾部八幡宮のバ

寺町の寺町公会堂の近くに自然

綾部を所領した「平重盛」

石を使った石碑がある。昭和6年に四方豊藏・綾部町長と芦田喜一郎・綾部校長、大槻實雄・正曆寺住職の3人が発起者と

綾部八幡宮に直筆の扁額

本宮や新宮の地名も名残か

並松町の熊野新宮神社

治承年間(一一七六年)

また、重盛直筆とされ

天正年間(一五七三)

法皇が治承元年(一一七)

幽閉しようとしたのを諫

が以仁王を、「最期の地」

HK大河ドラマ「義経」

遊し、由良川を臨んだ並

る扁額「八幡別宮大菩薩」

録をことごとく失ったの

の勧請か」としている」

7)の清盛打倒の策を近

め、2人を和解させるの

のかもしれない。(細見)

の地に勧請したと伝えられる。

綾部藩の記録によると

重盛は武将でありなが

た「鹿ヶ谷の陰謀」の際、

法皇に対する重盛の思い

あつた時、山城國石清水八幡宮

の別宮として此の地に勧請した

と伝えられる。

綾部藩の記録によると

重盛は武將でありなが

丹波の国守であつた時、山城

國石清水八幡宮の別宮として此

の地に勧請したと伝えられる。

綾部藩の記録によると

重盛は武將でありなが

綾部の地名の中に本宮山、本宮、新宮等々であるの

「八幡宮は治承年中

内府三位中将平重盛卿が

丹波の国守であつた時、山城

國石清水八幡宮の別宮として此

の地に勧請したと伝えられる。

波の知行国主となり、天橋立の景勝を愛して社中

に館を置いたと云う。また、綾部にも所領を得て

宮代町の綾部八幡宮のバ

「ここは平重盛卿の領地

ら濃厚な性格で、後白河

父・清盛が後白河法皇を

幽閉しようとしたのを諫

後白河法皇の第2皇子と言え、以仁王。高倉町の高倉神社の祭神にもなっている以仁王は、治承4年(一一八〇)6月9日に綾部(現在の里町)で腹部に負ったけがが悪化して、亡くなったと伝えられている。

寺町公会堂近くに建立されている「平重盛」の顕彰碑(寺町で)

